

2020年、さらにその先の英語教育に向けて

スイスの言語教育政策から学ぶ - CALPを育てるCLILによる学びを

文教大学
金森 強

kanamori@koshigaya.bunkyo.ac.jp

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2016

研究代表者:福田浩子 2014-2016 基盤研究(C)
「多言語・多文化に開かれたリテラシー教育についての
研究:初等教育と教員養成を中心に」

研究代表者:山野有紀 2014-2016 基盤研究(C)
「外国語活動におけるCLILを活用したカリキュラム
及び指導者養成プログラムの開発」

HarmoS(義務教育学校間協調 指導要領)

CEFR ELP EOLE/ELBE

- Lehrplan21 【ドイツ語圏】
 - PER 【フランス語圏】
 - Passepartout(仏・英 指導要領)
 - Sito didattico della scuola ticinese 【イタリア語圏】
- ▶ Sprachprofile(言語プロフィール:バーゼル ドイツ語)

Sprachprofile (言語プロフィール)

複言語・複文化主義 Action-Oriented Approach

- 学習のために必要となる言語能力記述文。
- 学年が進むにつれてどのような言語的行為を身に付けなければならないかを示している。
- 全ての教科を通して行われる言語活動であり、同時に言語学習にも役立つ。

全教育課程全体を通して育てる言語力

「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チーム」
審議の取りまとめ

(2) 教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力と
言語能力について

このように、言語能力は、国語科や外国語活動・外国語科のみならず、全ての教科等における学習の基盤となるものである。

CLIL

- ・学習者の身近な話題・興味を持つ内容
- ・言語を用いて(新しい)内容を/(深く)学んでいる
- ・思考スキルの育成
Think logically / critically / analytically / creatively
- ・文化的気づきを促す ➤ 異文化コミュニケーション
- ・内容/テーマが言語材料を決める

CLILの可能性と期待

- ▶ 複言語・複文化主義から広がった指導方法
- ▶ B1レベル以上の言語能力があつてこそ効果的
高等学校「論理・表現(仮称)」言語活動中心の専門科目
「発表,討論・議論,交渉」技能統合型

* 全教育課程を通して言語力育成を進めながら

参考文献

- 『外国語教育II 外国語学習、教授、評価のための
ヨーロッパ共通参照枠』追補版 吉島・大橋 (2014)
- 『外国語教育V 一般教育における外国語教育の
役割と課題』吉島・Ryan (2014)
- 『外国語教育VI 言語(外国語)教育の理念
・実践案集』吉島・大橋 (2015)
- 『外国語教育VII グローカル時代の外国語教育』
吉島・Ryan (2015) 朝日出版